道東海域に来遊するスルメイカの南下移動

Ⅱ　南下移動の経年比較*

中　田　　淳（北海道立釧路水産試験場）

Ⅰ　はじめに

昨年の本会議で，著者は，1980・1981年の資料をもとに道東海域からのスルメイカの南下移動が，図1のように雄が成熟し雌と交接し始める直前の時期と一致して起ることを明らかにした。また，その移動を始める要因として雄の成熟の進行が重要であることを強調した。

そこで本報告では，以上得たことを検証するために，1980年以前の年についても南下開始時期の成長・成熟状態を調べこれらを経年的に比較した。

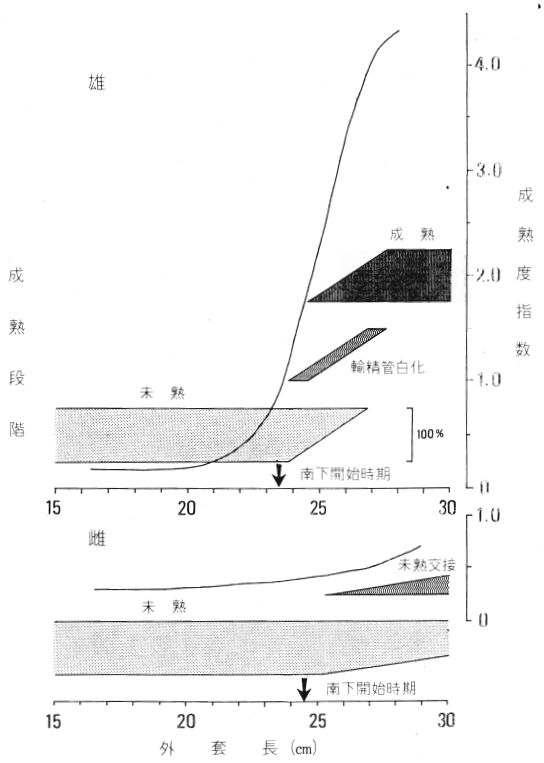

図1　外套長に対する成熟度・成熟度指数の変化と南下開始時期

Ⅱ　材料と方法

用いた生物資料は，1968~1981年に釧路水試および関係各機関が行なった測定結果である（ただし1976~1979年は，スルメイカの漁獲が極めて少なく資料がない）。

1968～1975年の南下開始時期は，漁海況予報事業結果報告書（北海道，1968～1975）スルメイカ漁況経過の概要の記述にしたがって推定した。1980・1981年は，標識放流の再捕結果によった。

Ⅲ　結果と考察

1．南下開始時期の経年比較

＊　本会議出席が取り止めとなり，口答発表はなかったが，その内容は会議資料として配布され，文書による質疑が行われた。

1968～1981年各年の南下開始時期を旬の単位で推定し，図2に示した。早い時で，1981年の8月上旬であり，遅くて1970・1971年の9月中旬で，9月上旬が多かった。南下開始時期は，1981年を異例として考えれば，9月上旬を中心に前後1旬の範囲にあり，年による変動はあまりないと考えられた。

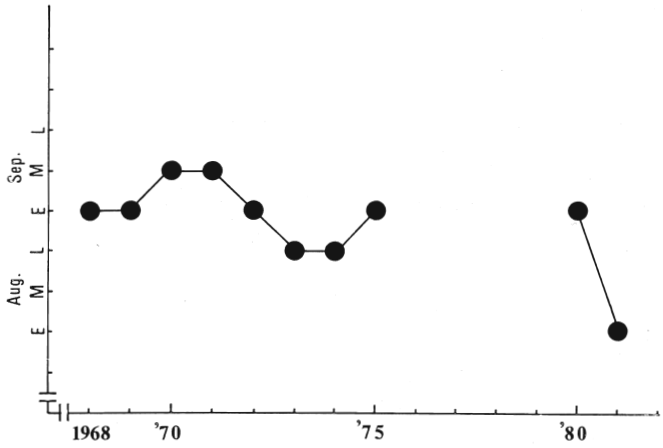

図2　南下開始時期の経年変化

2．南下開始時期の雄の外套長および成熟度指数（精巣重量×10^4／(外套長)^3）の経年比較

南下開始時期の雄の外套長および成熟度指数を旬の平均値で表わし図3に示した。各年とも外套長は23㎝前後，成熟度指数は1.0前後でまとまっていた。

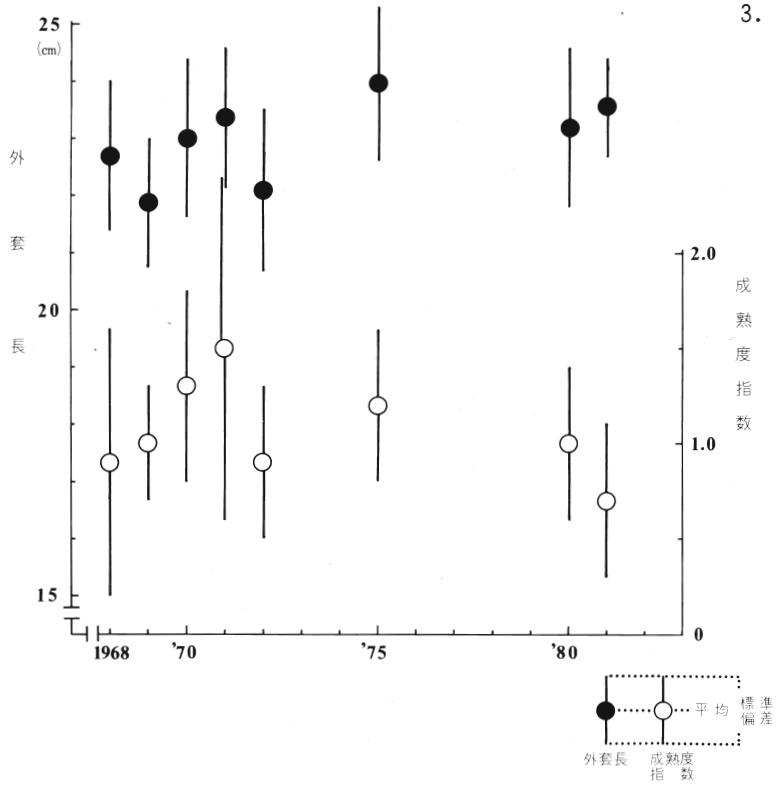

図3　南下開始時期の雄の外套長・成熟度指数の経年変化

3．南下開始時期の雄の群成熟率（精巣5g以上個体／雄全個体×100）の経年比較

雄は，一般に精巣が5g以上になると成熟個体が出現し始めるので，5g以上のものを成熟としてその出現率（群成熟率）を求め，各年における推移をみたのが図4である。あわせて南下開始時期も示した。南下開始時期の雄の群成熟率は，各年とも0～10％の範囲にあり，ほぼ一定していた。

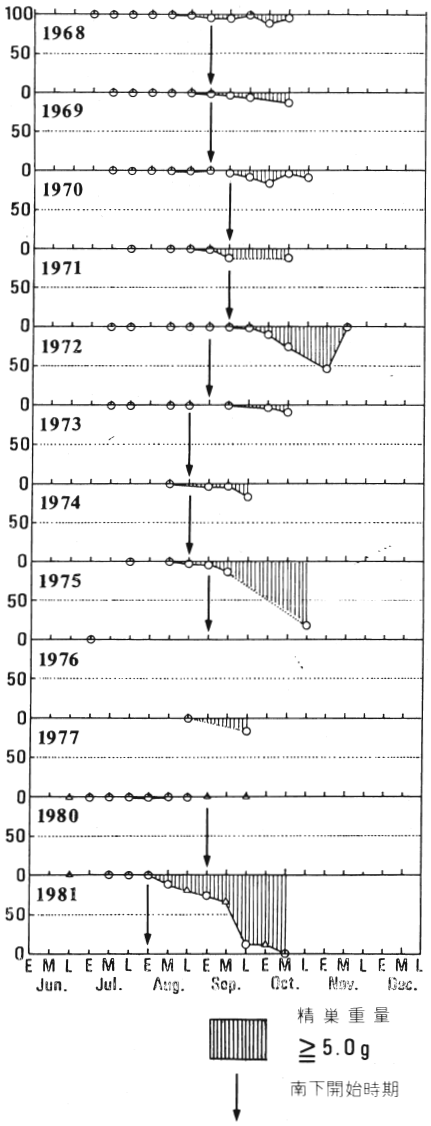

図4　南下開始時期の雄の群成熟率の経年変化

以上をまとめると，道東海域に来遊するスルメイカの南下移動は，雄が成熟し始める時期（9月上旬前後）に起き，その時期の成長・成熟状態（雄で，外套長約23㎝，成熟度指数約1.0，群成熟率0～10％）には，年による変動はあまりないと結論された。

参考文献

中田　淳（1983）．道東沿岸に来遊するスルメイカの南下移動．昭和56年度 イカ類資源・漁海況検討会議議事録，31～36．